

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 6 年度第 2 回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和 7 年 2 月 2 5 日（火） 午後 2 時～3 時 4 0 分
開催場所	高松市役所防災合同庁舎 5 階 5 0 1 会議室
議 題	(1) 議長及び副議長の選任 (2) 高松市生涯学習事業の推進状況について（令和元年度～5 年度実施事業） (3) 高松市生涯学習事業の推進状況について（令和 6 年度以降実施事業） (4) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	—
出席委員	大村委員、岡委員、松下委員、有澤委員、藤本委員、山神委員、森岡委員 （欠席委員 2 名）
傍聴者	0 名（定員 5 名）
報道記者	0 名
担当課及び連絡先	生涯学習課 8 3 9 － 2 6 3 3

会議の経過及び結果

議題（１） 「議長及び副議長の選任」

高松市社会教育委員会議運営要綱第 2 条の規定に基づき、委員の互選により会長及び副会長が選任された。

（議長：山神委員、副議長：大村委員）

議題（２） 「高松市生涯学習事業の推進状況について（令和元年度～5 年度実施事業）」

事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

（委員）

全体の傾向として、新型コロナウイルス感染症の影響が、数値として表れていた。一方で、コロナ禍での工夫や努力についても表れているということが分かった。

参加人数という指標を設定している取組が数多くあるが、参加人数だけでは評価することが難しい部分もあるのではないかと。

（事務局）

御指摘のとおり、参加人数等、周囲の環境の影響などで、数値が上がらない指標を設定している取組もある。参加人数ではなく、参加者がどのような学びを得たのかなどの、参加者の意識の変容などを把握し、それを指標にする必要があると考えている。

（委員）

「自主学習スペース事業」について、近年、学生や若者が様々な場所で学習している姿を見る機会が増え、学習できる場所を求めるニーズの高まりを感じている。今後も、工夫をしながら、広報を行っていただきたい。

（委員）

Ⅳ青少年の健全育成について、子どもたちも YouTube 等を見る機会が多いため、インターネットの利用方法等についての指導の仕方も課題になっている。

また、「保育所・幼稚園への出前食育事業」についても、近年、食育の重要性が高まってい

会議の経過及び結果

るので、こうした事業をもっと広めていっていただきたい。

(委員)

事業の評価基準について、参加人数等だけでは分からない、参加者がどのようになって欲しいのか等の部分についても評価していけたらいいのではないかなと思う。加えて、単年度の目標設定ではなく、長期的な目標を設定することでも評価の仕方が変わるのではないかなと思う。

どの取組に関しても、やることが目的になってしまいがちだが、地域の様々な社会資源と連携することで、より取組を深めることができると思う。

「自主学习スペース事業」について、大人の方も利用されているということで、利用者をもっと巻き込みながら、何か新しいことができればいいのではないかなと思う。

(委員)

学校教育における学力保障が課題となっているなかで、生涯学習センターをたくさんの方が利用しているということは、学習意欲が高まっているのではないかなと思う。

「高松市夜間教室事業」について、不登校等で十分に学習できなかった方にとって、とてもいい事業だと思う。生涯学習の必要性をととても感じた。

(委員)

V家庭・地域の教育力の向上における「学校・地域連携システム推進事業」について、川東小学校の事例が紹介されているが、他の小学校ではどのような取組をされているのか。うまくいっている部分とうまくいっていない部分の情報共有を行うことが課題の改善につながっていくと思う。

また、学校だけでの課題解決ではなく、家庭・地域も一緒に取り組んで行く必要があるので、家庭・地域への情報共有も積極的に行っていくことが大切だと思う。

「高松市夜間教室事業」について、三豊市にある夜間中学校とは別だが、目的としては似ている部分があると思う。今後の対象の拡大等は考えているのか。

(事務局)

学校・地域の連携について、地域学校協働活動のモデル事業として、今年度から川東小学校を始め、4校をモデル校として指定し、それぞれに地域と学校をつなぐコーディネーターの方を委嘱している。来年度も新たに4校をモデル校に指定し、計8校で実施していく予定である。モデル事業を実施していく中での成果としては、古高松南小学校において、コーディネーターが中心となりボランティアを募集したところ、これまであまり学校と関わりがなかった地域の方が、学校行事に参加してくださるなど、学校の活動に関わる方の幅が広がったことが挙げられる。

また、モデル校として指定していない学校でも、防災の意識が高まっていることもあり、今まで地域単独で行っていた防災訓練を学校と合同で実施するという所も増えてきている。

今後の課題としては、地域と学校の関係性も様々であるので、地域の状況に応じた形で、実施していく必要があると感じている。

「高松市夜間教室事業」について、現在、月2回の頻度で開催しているが、受講生へのアンケート調査では、通年で毎日決まった時間に通学することへの難しさを感じている方もいる。参加される方のニーズや課題を踏まえ、事業の拡充や夜間中学校の開設について検討し

ていく。

(委員)

学校運営協議会と地域学校協働活動は、こういった関係性なのか。

(事務局)

学校においては、地域の方に、学校運営協議会に参画いただき、学校運営などを話し合っている。地域においては、地域学校協働本部という緩やかなネットワークを形成し、話し合った内容を活動につなげていく。それぞれをコーディネーターがつなぎ、両輪として動かしていく。

(委員)

資料 1 1 ページには、高松型学校運営協議会と記載しているが、高松型とする何か特徴的な部分があるのか。

(事務局)

令和 4 年度までは、国が示す学校運営協議会の役割のうち、学校の経営方針を承認する機能などを有していない学校運営協議会を高松型として設置していたが、5 年度からは、国の定める学校運営協議会を設置している。

(委員)

資料 7 ページ「香南歴史民俗郷土館子ども講座」の実績と評価について、令和 2 年度は 21 人で C 評価、3 年度も人数はほぼ変わらないが A 評価になっている。この違いは何なのか。

(事務局)

資料 4 ページに評価方法を示している。前年度との比較による評価のため、令和 2 年度を上回った 3 年度は A 評価となる。

議題(3)「高松市生涯学習事業の推進状況について（令和 6 年度以降実施事業）」

事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

資料 6 ページの評価方法（案）について、二十歳のつどい開催事業の指標名として「二十歳のつどいに参加して将来への決意を新たにできた青年の割合」とあるが、既に決意が固まっていて、式典に参加しても決意を新たにしていないといった方もおり、どのような評価していくのか慎重に考えていく必要があると思う。

また、資料 5 ページの青年教育推進事業について、令和 5 年度までは参加者の満足度を指標としていたが、6 年度からは、ボランティアに絞った指標を設定しているのはなぜか。

評価について、抜本的に見直しを行っており、期待感が高まる取組だと思う。

(事務局)

二十歳のつどいについて、出席者へアンケートを実施することになると、どうしても一律の質問に答えていただく形になってしまう。同じ二十歳の方でも、それぞれ境遇や立場は様々なので、できるだけ本質の部分を評価できるよう設問を工夫していきたい。

青年教育推進事業について、知的障がい者青年教室を通年で実施しており、知的障害のある方が日常生活に必要な知識・技能を学ぶとともに、ボランティアの方が知的障害のある方への理解を深めることを目的としている。受講生の満足度については、非常に高い水準を保っており、今後大きく変動することが考えにくい状況がある。一方で、ボランティアの方に

については、新規で登録される方も多く、毎回参加するごとに新たな発見や学びを得ている状況のため、ボランティアを重視した指標を設定している。

(委員)

指標について、どうしても参加者数等の指標になってしまうこともあると思うが、取組を行ったことで地域にどのような影響を与えたのかなど、取組自体がどうなっていたのかについても評価できるような指標があればいいのではないかと思う。

(事務局)

目標値に対して、これまでの前年度比ではなく、中期的に最終年度の到達点に向けて段々と伸びていくような目標設定をしている。1つの目標値のみで事業全体の評価はできないと思うので、費用対効果等の部分も踏まえ、様々な角度から多面的に事業を評価する必要があると考えている。

(4)「その他」について事務局及び委員に意見等がないか確認する。

【事務局からの報告事項】

- ・生涯学習課「家庭教育情報発信事業動画」について説明

その他意見等はなかったもので、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。